原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

地域の皆様へ

新春を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

敦賀事業本部長（副理事長）　板倉 康洋

明けましておめでとうございます

今年の干支は「巳」です。蛇は、脱皮を繰り返して成長することから、巳年は成長と変革の年になると言われています。

原子力分野では、過去の巳年を振り返ると、2001年（辛巳 かのとみ）には、橋本首相が実施した中央省庁改革により、政府の原子力推進体制が大きく変わり、2013年（癸巳 みずのとみ）には、原子力規制委員会の新規制基準が決定・施行されています。

昨年末には、第7次エネルギー基本計画の原案が示され、「再生可能エネルギー、原子力などエネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源を最大限活用することが必要不可欠である。」との記述が盛り込まれ、原子力政策についても成長と変革の年になると期待しています。

原子力機構といたしましては、「ふげん」、「もんじゅ」の廃止措置を安全第一で進めるとともに、ご心配をかけております新試験研究炉についてもしっかりと取り組んでいくことで貢献してまいります。

敦賀事業本部長代理（理事）　近東 正明

昨年を振り返りますと、「ふげん」では、原子炉周辺の機器の解体・撤去作業が進み、また、「もんじゅ」では、一昨年のトラブルで中断していたしゃへい体等の取出し作業を10月に再開し、本年1月7日に計画していた191体の燃料池への移送を完了しました。さらに、10月には廃止措置計画変更認可申請を行い、廃止措置の次の段階に向けた準備を進めることができました。「ふげん」、「もんじゅ」においては、引き続き安全最優先で廃止措置を進めてまいります。

また、新試験研究炉は、国土地理院が公表した「もんじゅ」敷地内の推定活断層について、原子力規制庁からの見解を受け、必要な検討・調査等を着実に実施し、できる限り早く、原子炉設置許可申請見込み時期等を公表できるよう、取り組んでまいります。

本年も、地域の皆様のご理解とご協力を賜りながら、安全第一で事業を着実に進めてまいります。

新試験研究炉推進室長　　村尾 裕之

昨年末、原子炉設置許可申請見込み時期と建設予定地の公表予定を延期させていただきました「もんじゅ」サイトに設置する新試験研究炉につきましては、本年も設計を進めるとともに、「推定活断層」に関する地質調査の計画をしっかりと検討し、調査を着実に進めてまいります。

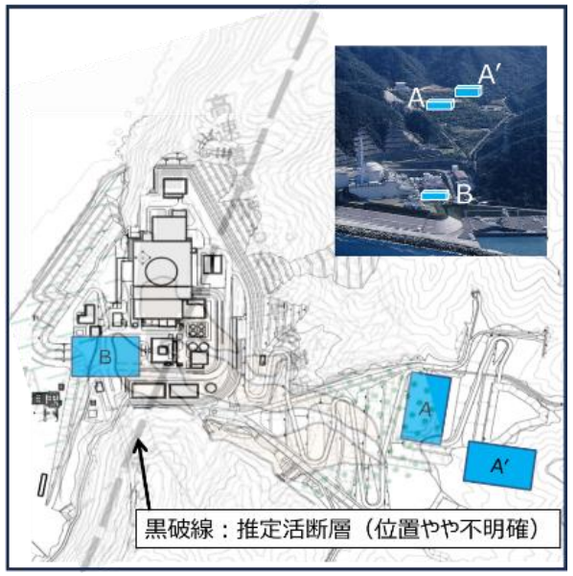
引き続き、産業、研究開発、人材育成等の拠点となり、地域貢献を果たせる試験研究炉の設置に向けて、設計・検討を推進してまいります。

新試験研究炉の原子炉設置許可申請見込み時期、建設予定地について

昨年10月29日、国土交通省国土地理院が公表した、「もんじゅ」が立地する敦賀半島を含む今庄地域の活断層図において、地形的な特徴から活断層の存在が推定されるが現時点では明確に特定できない（かつ位置も不明確な）「推定活断層」が、「もんじゅ」敷地内に記載されました。「もんじゅ」の廃止措置作業には原子力規制委員会において、大きな影響はなく、追加調査等の指示などは不要との所見が示されましたが、新試験研究炉の設置にあたっては、推定活断層の取扱いを含めて原子力規制庁と意見交換を行い、同庁からは、地盤調査等を進め、客観的なデータ等の必要なエビデンスを用意し審査基準への適合性を示す必要があるとの見解が示されました。

原子力機構は、安全性の確保を最優先として更なる検討・調査等が必要と判断し、文部科学省との協議の結果、新試験研究炉に係る原子炉設置許可申請見込み時期及び建設予定地の提示については、調査の進展を踏まえて改めてお示しいたします。

名称	特徴
地点A	山側盛土部（炉の設置場所は資材置場）
地点A′	山側盛土部（炉の設置場所は尾根）
地点B	もんじゅ近傍（炉の設置場所はもんじゅ建屋近傍）



出典：国土交通省国土地理院HP 地理院地図　金田 平太郎・石村 大輔・堤 浩之・中田 高・太田 凌嘉(2024)：1:25,000活断層図「今庄」，国土地理院を加工して作成

●本資料に関するお問合せ先●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構　敦賀事業本部　地域共生・広報課

〒914-8585　福井県敦賀市木崎65-20

【ＴＥＬ】0770-21-5026　【ＦＡＸ】0770-21-2045

原子力機構ホームページ　：https://www.jaea.go.jp

敦賀事業本部ホームページ：https://www.jaea.go.jp/04/turuga/

発行：2025年1月

「敦賀事業本部からのお知らせ」のページはこちらから

敦賀事業本部 副本部長　荒井 眞伸

敦賀地区の廃止措置を担当しております。新敦賀事業本部では、「ふげん」、「もんじゅ」の廃止措置の推進、レーザー技術等を用いた廃止措置に係る技術開発や、原子力リサイクルビジネスへの協力を含む地域企業の廃止措置事業への参画などの業務を担っております。

本年は、「ふげん」と「もんじゅ」の現場での解体作業と並行して、「もんじゅ」のナトリウム搬出に向けた作業を進めていく予定です。また、「ふげん」の使用済燃料搬出に向け、輸送容器を製造完了するとともに規制当局への許認可等の手続きを開始する予定です。

「ふげん」と「もんじゅ」の廃止措置完遂に向け、新敦賀事業本部として、より一層総合力を発揮して、これらの課題を安全第一で一つ一つ着実に進め、地域の皆様の一層の信頼をいただけるよう取り組んでまいります。

「もんじゅ」ナトリウム搬出　　「ふげん」使用済燃料搬出

敦賀事業本部 副本部長　木村 正実

地域共生、事業管理を担当しております。広報チーム「あっぷる」などによる地域の皆様への説明（コミュニケーション活動「さいくるミーティング」）、地域のイベントへの出展（機構業務の紹介）、各種広報誌（敦賀事業本部からのお知らせ　他）の作成・配布、報道対応、見学受入、従業員の福利厚生などの組織を支える業務を担っております。

本年も機構の業務をより多くの地域の皆様にご理解、ご支援いただけるよう分かりやすい説明、広報誌の作成などに取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

コミュニケーション活動
「さいくるミーティング」

地域イベントへの出展

高速増殖原型炉もんじゅ 所長　長沖 吉弘

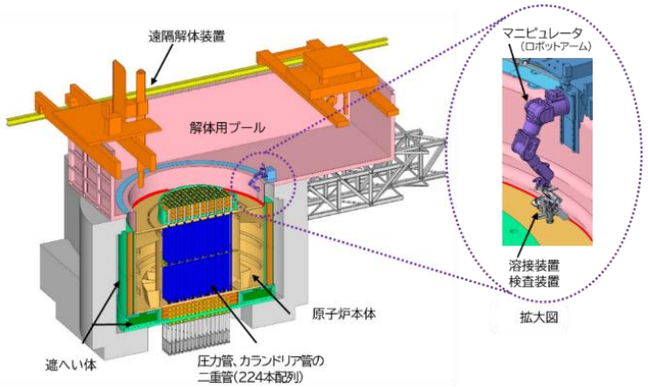
「もんじゅ」では、昨年10月に申請した廃止措置計画の変更認可後に2次メンテナンス冷却系の解体工事（2025～2027年度）を開始します。メンテナンス冷却系はプラントのメンテナンス時に炉心内で発生した熱を除去するための小型の冷却設備です。設備の配管内等のナトリウムは抜き取り済みで、残留ナトリウムの安定化処理や機器・配管の切断分解などナトリウム機器の解体技術の実証・確認を安全確保を最優先に行い、今後の本格的なナトリウム機器の解体に反映してまいります。

2次メンテナンス冷却系の機器類
（左：送風機、中央：循環ポンプ、右：膨張タンク）

新型転換炉原型炉ふげん 所長　水井 宏之

「ふげん」では、原子炉建屋内で原子炉周辺設備の解体撤去を進めており、本年は、大型機器のひとつである再循環ポンプ等を解体撤去します。また、原子炉本体解体に向けた技術開発、仏国への使用済燃料搬出に向けた諸準備も継続しているところです。

これらを通して得られた知見や経験については、今後の原子力施設の廃止措置に役立てることを念頭におきつつ、安全確保を最優先に業務を進めてまいります。引き続き、地域の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



原子炉本体の水中解体に向けた
解体用プールの設置に関する概念図

再循環ポンプ
（高さ約7m、重量約28.5トン）

敦賀地区の事業の実施にあたっては、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆様のご理解をいただきながら進めてまいります。